

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第98回放送の概要 (2015年6月27日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
たろう (佃 由晃)  
なか (中嶋邦弘)  
かりん (妹尾優香)  
あな (岸本幸恵)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) 神戸を代表する本格中華料理の名店、神仙閣神戸店は、昭和9年の創業から今もなお、神戸の地で愛され続けており、繊細な味わいと中華の伝統スタイルを継承しながら、華やかな北京料理を提供させていただいています。

兵庫高校OBの武陽会及び49陽会の皆さんも、神仙閣神戸店で、同窓会、披露宴は勿論、クラス会、祝勝会などの会合に是非ご利用ください。

ご予約は神仙閣 神戸店 電話050-5789-6080までお願い致します。

(CM) 川柳は見た、聞いた方がどのように解釈しようと全く自由です。では川柳を三句、

「ゆうかりに想いを懸けて多土済々」

「酔い醒めて昨夜の修羅場そっと聞き」

「宿帳に夫婦と書いた字が乱れ」

本日は、このような川柳を徒然なるままに作って遊んでいる川柳同好会様のご協力を頂きました。

## 1. ゲストコーナー(1): みはる不動産 山城敦人さん (79 陽会)

明親小学校、須佐野中学から兵庫高校、大学へ進学。現在は灘に居住しているが、子供の頃は中央市場近くの新川運河に隣接する切戸町に住んでいた。当時運河は貯木場で、今はキャナルウオークが出来るように整備されている。家の近くの清盛塚は今のようには整備されておらず、木がうっそうと茂っていた。整備されたのは大河ドラマが放送された時である。

切戸町周辺は能福寺、薬仙寺他お寺が多く、能福寺の兵庫大仏は戦時中の金属類回収令で供出され、山城さんが子供の頃は、石の台座だけになっていたが、平成3年に再建された。お父さんも兵庫高校(52陽会)の出身で、郷土史が好きでお寺などに連れて行かれ、能福寺にある神戸事件の滝善三郎の墓(供養碑)の事などを語ってくれた。



新川運河キャナルウォーク



兵庫大仏

兵庫高校では吹奏楽部に入り、当時は全国大会常連校であった。楽器は中学時代からトロンボーンを担当していた。練習は厳しく、朝練、昼連、夕方連の3回練習していた。体育祭で一番印象に残っているのは、「おろせません勝までは」という競技で、砂袋に20kg程の砂を入れ、頭上にかつぎあげ、一番長く担いだ人が勝ちという単純な競技である。時間が経つと選手の数が減っていくので、応援が増えるに従い熱が入り、最後の一騎打ちでは全校生が二手に分かれ、勝負がつくと敗者に対し、良く頑張ったと言って泣いている女生徒もいた。他の種目では、女装して一番きれいな生徒を選ぶ玉三郎コンテストがあった。また、神戸高校との定期戦では吹奏楽部は応援の主役で、素晴らしい応援が出来たと思っている。山城さん在学時の生徒会と吹奏学部の指揮者が相談し、甲子園のような華やかな応援をしようということで、参加者全員がプレートを持ち、人文字を作って応援したのが兵庫高校では山城さんの学年が最初と思っている。修学旅行は長野県の本島平に行き、スキーをした。



おろせません勝までは

## 2. ミュージック： 未来へ (キロロ)



## 3. ゲストコーナ (2)

大学卒業後は、司法書士事務所に勤めた。お父さんが不動産業であり、阪神淡路大震災の時、近所でトラブルがあり、法律は大事だと思い司法書士になりたいと思った。震災で家は全壊判定で平行四辺形に傾き、それを直して住めるようにはなった。司法書士資格を取ることに挫折し、20代後半までは何をするか模索していた。奥さんとは事務所での職場結婚で、日韓ワールドカップの時期に、勉強をしている人が少ない韓国語を学びたいと思い、本を購入しハングル文字の練習をしていた。手に職をつける一つとして韓国語を選んだ。文法は日本語とほぼ同じで、ハングル文



高麗大学

字も規則、文法を理解すれば習得は難しいものではない。会社帰りに奥さんとお茶を飲んでいる時、家に早く帰り勉強をしたいと言うと、奥さんからそれなら韓国に留学しようかと言われた。山城さんの勉強の姿をみてうらやましいと思っていたようで、楽しいなら私も勉強したいと言った。周りは、仕事を辞めて留学するのは無謀と大反対した。今しか出来ないと思って、韓国での生活費を溜めてから、二人で留学した。

高麗大学の語学センターに入学し、留学生 10 人程の下宿で、賄い付きの学生生活をした。下宿生活では留学生と、ものすごく仲良しになった。授業は挨拶がわからない人から教えていくので、先生も工夫し、簡単な単語しか使わずわかりやすかった。外国語の先生であるが、授業は全て韓国語で行われた。1 年半の留学で読み、書き、話すは習得し、考え方・行動（お年寄りに席を譲る、年上だからしっかりしないと事、奢ってしまうなど）も韓国風になっていた。韓国は割り勘がなく（最近は変わってきている）、年長者を敬い、年長者に対し礼儀正しい。授業中も、年配の生徒に対する先生の態度はすこし違っていた。夫婦の留学生は山城さんだけで、学費は割り引いてくれた。韓国語の講師の学校認定資格を取得した。目的を持って留学したので、人生で一番勉強し、1 年半で資格を得ることができた。

礼儀が要求されない友達同士の場合はルーズで、自分と友達の境界がなくなり、男同士で手をつないだり、お互いの飲み物は勝手に飲むし、男同士で住んでいた学生は、片方がデートするのに自分のクレジットカードを渡していた。友達同士では普通のことと言っていた。韓国の人は酔った時に、ストレスが多い国であると言っていた。山城さんが酔い潰れると評価された。日本では自己管理能力がないと言われるが、友達同士の場合は、よく頑張った、そんなにおまえは俺といたかったのか、会ってうれしい気持ちを酔い潰れることで表現した、と言って、弱い所をさらけ出した事を評価してくれる。翌朝、顔を合わせると、日本ではしらっとされるが、韓国ではスタンディングオベーションになる。

みはる不動産（078-200-5996）の特徴は、外国人（主に中国、韓国の方）の部屋さがしに積極的に取り組んでいることである。外国人が借りにくい理由は、家主がシルバーの方が多く、外国人に慣れていないこと、生活習慣が日本と違うので、隣室から声が大きいといわれたり、ゴミの分別が出来ない、ビザのない友達と一緒に住んでいるなどを家主が経験すると貸してくれなくなる。山城さんが家主を説得するやり方は単純で、借主がいかにかまともな人かを、家主に分かってもらえるような工夫をしている。保証人がいない場合、今は家賃保険があり、保証人も要求する家主がいるが、家賃保険だけで家主の了解を得られるように、入居希望者の写真を撮り説得している。



アベノミクスの効果は、関西の不動産業では感じられない。不動産の売買をしているが、売買価格は 2 極化し、駅に近い物件が好まれ微増もしくは現状維持で、駅から遠い物件は苦しい。今後のみはる不動産は、韓国留学の経験を生かし、外国人気持ちは幾分わかるので、そのような方への対応に力を入れていきたい。

#### 4. こぼれた話こぼれなかった話：「災害ボランティア割引制度」実現を

- (1) 阪神淡路大震災では、あの未曾有の被害から立ち上がるために、被災者自らの懸命な努力のほか、全国から 180 万人ものボランティアが集結し、復旧復興を支えてくれました。この平成 7 年（1995 年）が「ボランティア元年」といわれる所以（ゆえん）であります。

(2)ところが、東日本大震災が起きて、被災地に入ったボランティアの数は、阪神淡路大震災に比べてかなり少ない（同期間3年で約5.3万人）。この最大の理由は、被災地までの交通費や宿泊費が高むからと思われます。

(3)そこで、阪神淡路大震災の地元兵庫県は県社会福祉協議会に創った「ひょうごボランティアプラザ」（平成14年）が中心となって、震災20年の成果を全国に広げ、「助け合いの文化」を兵庫から創造・発信するため、ボランティアが利用する交通費や宿泊費の本人負担を軽減し、社会全体で活動を支える仕組みとして、『災害ボランティア割引制度（ボラ割制度）』の創設を提案し、今年1月17日に「災害ボランティア割引制度を実現する会」を結成しました。国へ実現を求める運動、特に、現在兵庫県内はもちろん、全国で署名活動を展開し、賛同を呼びかけています。

(4)ボランティアは「自己完結」をモットーとします。被災地に負担をかけないためです。これらも阪神淡路大震災の教訓から全国に浸透したのです。

度重なる豪雨や台風による風水害、そして南海トラフ地震や首都直下地震など大災害の発生が危惧される中で、被災者を支え、復旧復興の力となるボランティアが果たす役割と期待は大きくなってきています。

東日本大震災などの際に実施され始めた、ボランティア車両の高速道路の無化と同様に、被災地までの鉄道などの交通費や被災地での宿泊費の本人負担を軽減する制度が必要になっています。

(5)署名数は急速に伸びてきており（10月で3.2万人）、賛同の輪は兵庫から全国に広がっています。

実現する会では、「街頭に立つと、20年前の震災の恩返しにと署名してくれる人が多い。協力してくれる若者たちも寒さ、暑さに負けず声をからして訴えている。そんな人々の思いと行動に答え、災害を受けた人々を勇気づけるためにも、さらに理解を求めて、制度化を実現させたい」としています。

## 5. 地域瓦版

7月19日（日）、第7回フィエスタペルーナ KOBÉ2015が、勤労会館7階大ホールで11時から開催されます。入場無料です。ステージでは日本各地に在住するペルー人や日本人アーティストによる歌と演奏や、ダンスを楽しむ事が出来ます。ペルーとラテンアメリカの食と文化に触れられるだけでなく、日本人と他国の人々との交流の場でもあります。今年には震災20年のメモリアルとして、「幸せ運べるように」のスペイン語バージョンが初披露されます。今年には食コーナーも力を入れています。

6月28日（日）は、新長田ゆるフェスが地域人材支援センターで12時から開催されます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>